

A

鈴木静村書

雪花被岸中流黒 雲氣涵山衆壑虚 (張公葉)
雪花岸を被い中流黒く、雲氣山を涵し衆壑虚し。



B

概観

19年前、中国湖州の善璉湖の筆廠で購入した兼毫特号を使用。当時の筆匠の手捌きには、今もって印象が強い。いまだに「筆氣」を覚える。久しぶりに腕に應えるものが快い。筆の快味に反して表出は両作共平板。山場もなければ「ク」の浮沈もない。この平易・平凡な物足りなさをぜひ打開してほしい。潤渴、大小、太細を導入し暴れ楽しむのも「力」の発動。



主な文字について

雪花被 AB少々相違、要は字典から。岸中A連綿、B意連。流 墨継ぎ、A旁一画目略した形、古典に多い。黒 A三画目、点一つの形。「連火」に相違。雲 B三画目に点を重ねた形。氣 米、この形多い。涵山 線上通り。喰い込みを。山 末画失敗。衆 Aここまで一筆、Bは墨継ぎ。壑 A墨継ぎ。墨継ぎは参考。虚 筆順は半紙漢字「處」参照。

訳：雪は川の兩岸をおおって、川の中ほどばかりが暗く、雲は山を埋めて多くの谷は空虚である。

予告 昇試第一部漢字 (二月二十二日締切)

寒梅向暖商量白

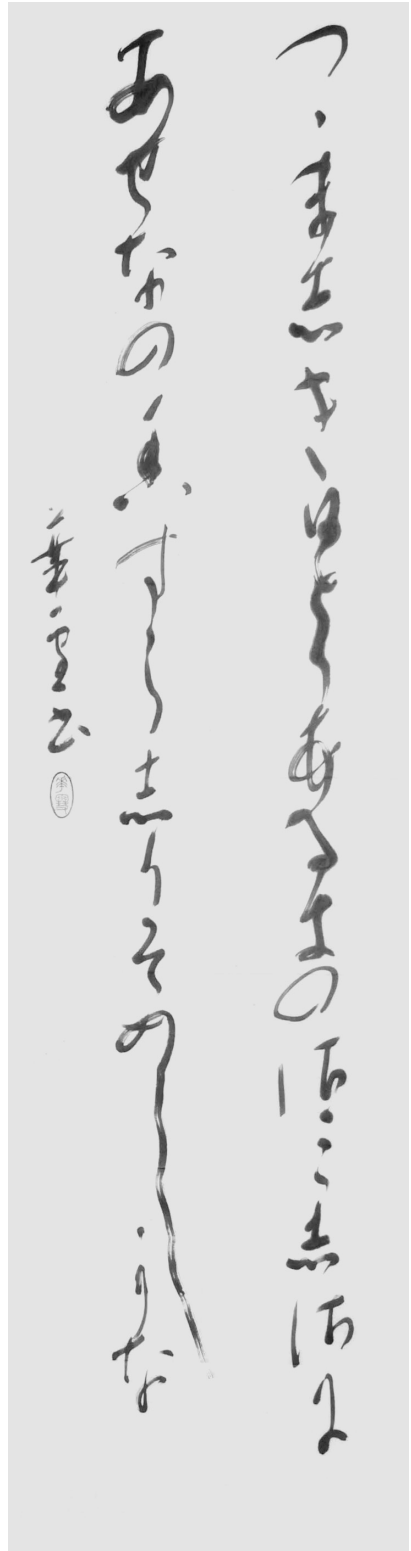
舊草迎春接續青 (唐伯虎)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

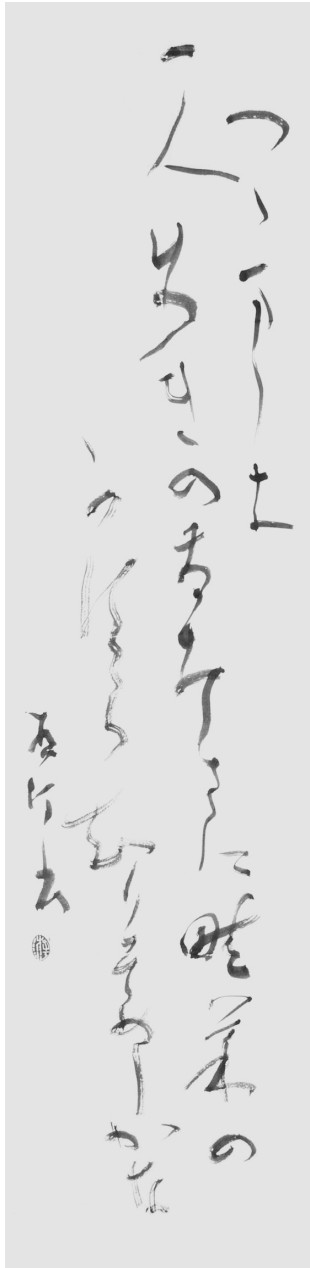
つつましきひとりあるきのさみしさにあぜ菜の香すら知りそめしかな (北原白秋)
つ、ま志き日ひとりある支の佐三志佐尔あせなの香すら志りそめしかな



B

立川遊汀先生書

つ、万し支一人歩きの散みしさに畦菜の可須ら知りそめしかな



北原白秋 (1885~1942)

詩人、歌人、童謡・民謡にもすぐれた天分を示す。作曲家、山田耕柞とのコンビで数々の童謡の傑作を世に送りだし、それらは今なお歌い継がれている。日本語の美しさを、もっともよく發揮した詩人ともいわれている。

学 び 方

「つつましき一人あるきの」これは白秋二十七才頃、人妻との道ならぬ恋に下獄するなど、社会的制裁をうけ、失意のどん底にあった時の寂しい歌。こんな歌意を理解しながら、三行書き、行の流れ、連綿に留意して表出しました。

予告 昇試第一部かな (二月二十二日締切)

み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春はきにけり (新古今和歌集)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

隨處是れ林泉(施樞)

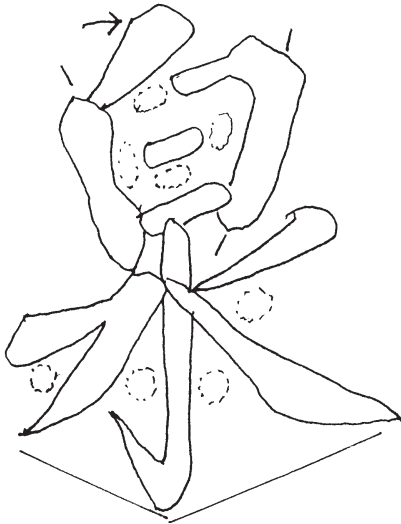
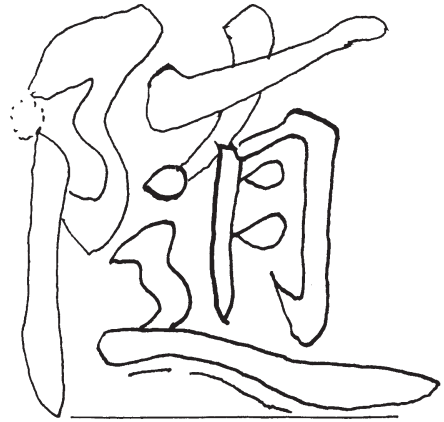
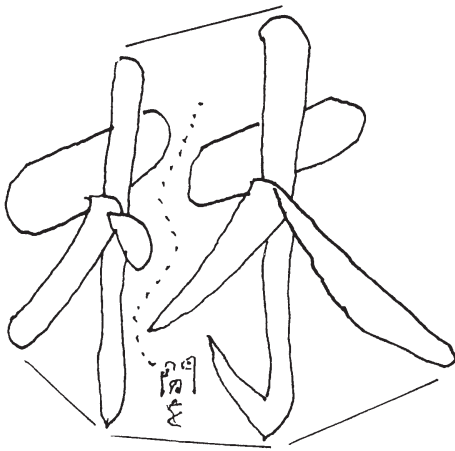


訳：行くところすべてこれ林泉である。

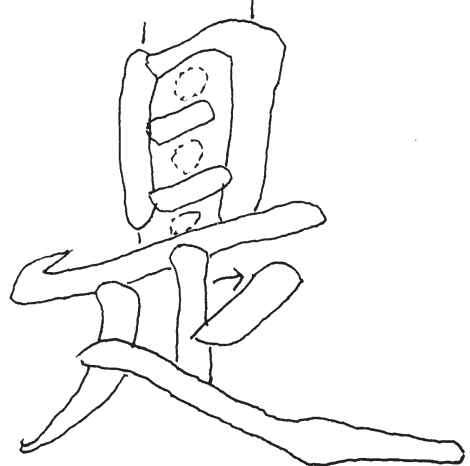
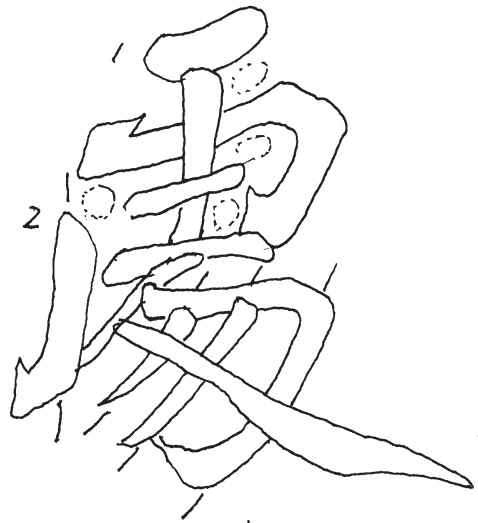
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



参考「処」は「處」の略字ではない

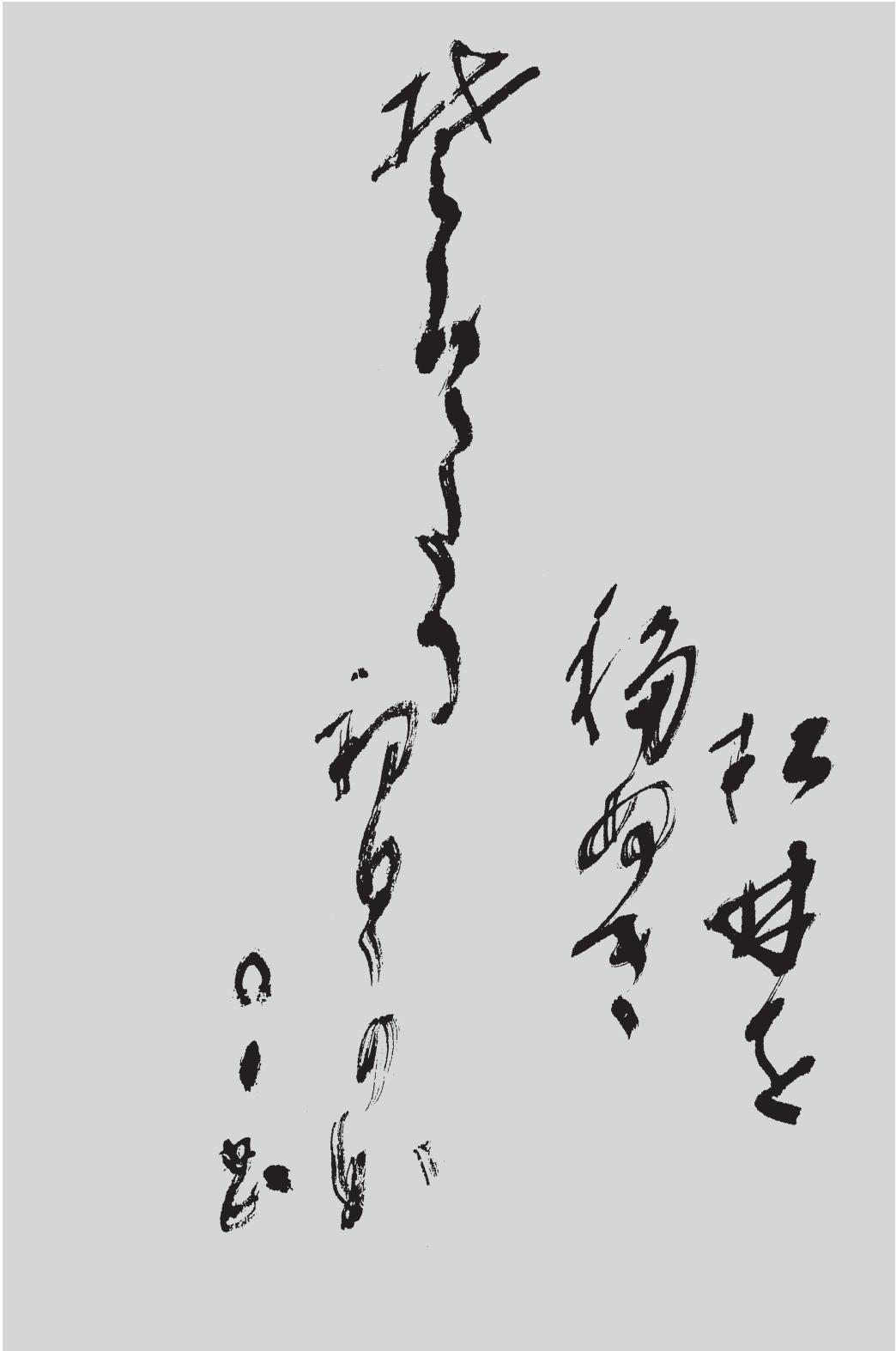


五字、右への払いをとり珍しい
課題。しかし業外配字しき、
右辺の払い出さず、中央の接
触なく、のびやかに用筆して
貫いた。「處」の筆順は、
左の夕テ画が最後。1、2の

右払い、のびやかに

平岡華雪先生書

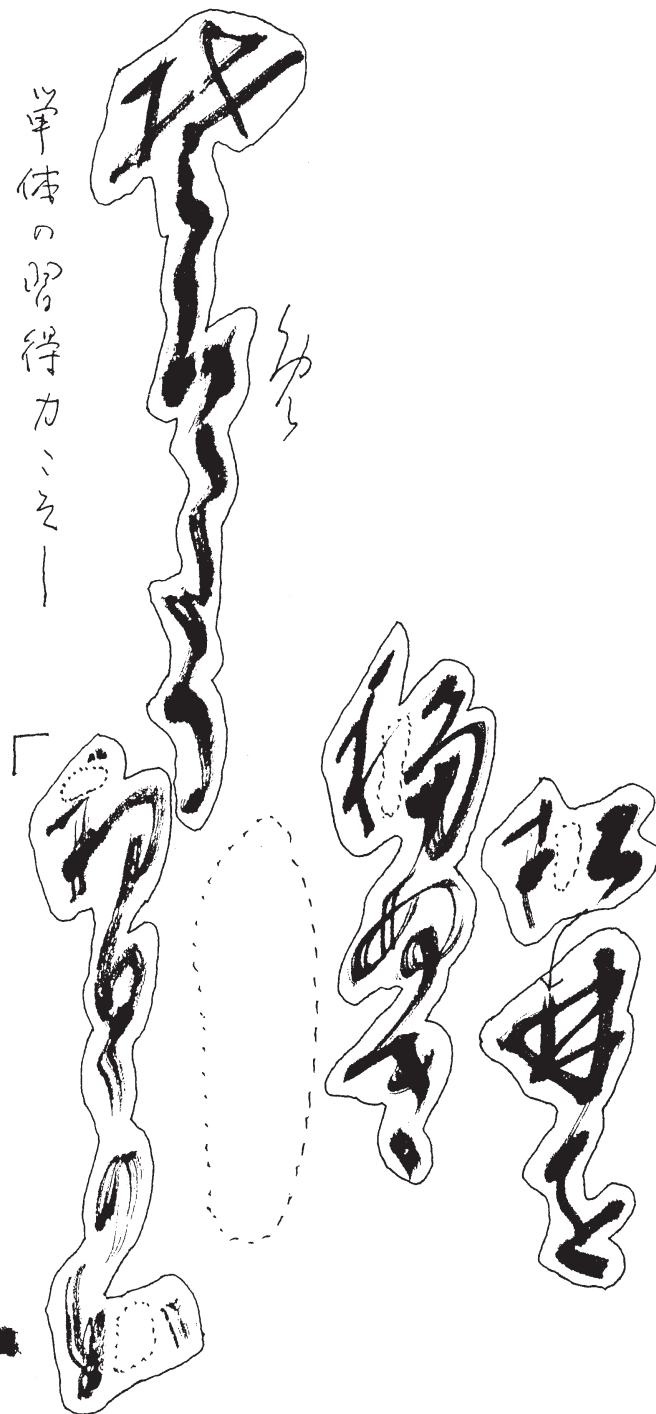
松林をいぬきそめたる初日かな (激浪)



予告 昇試第二部かな (二月二十二日締切)

ふるさとの庭は木の葉に色かへてかはらぬ松ぞ緑なりける (千載和歌集)

単体の習得カキエー
 初歩段階はもちろん、上位者にして「単作」の徹底習得の要諦である。
 には今一步を感ずる。かなの単体は基本の要諦。連続以前の要諦である。
 単体練習(手紙、変体かな)用筆の基礎を覚えたばかり。このかなの習得
 を形成する。今日の課題は、特に「移、楚、免、多、可、那」等である。
 手紙は、字典を参考に、字源、形、筆意を的確に身に付けてほしい。



北 沢 博 舟 先 生 書

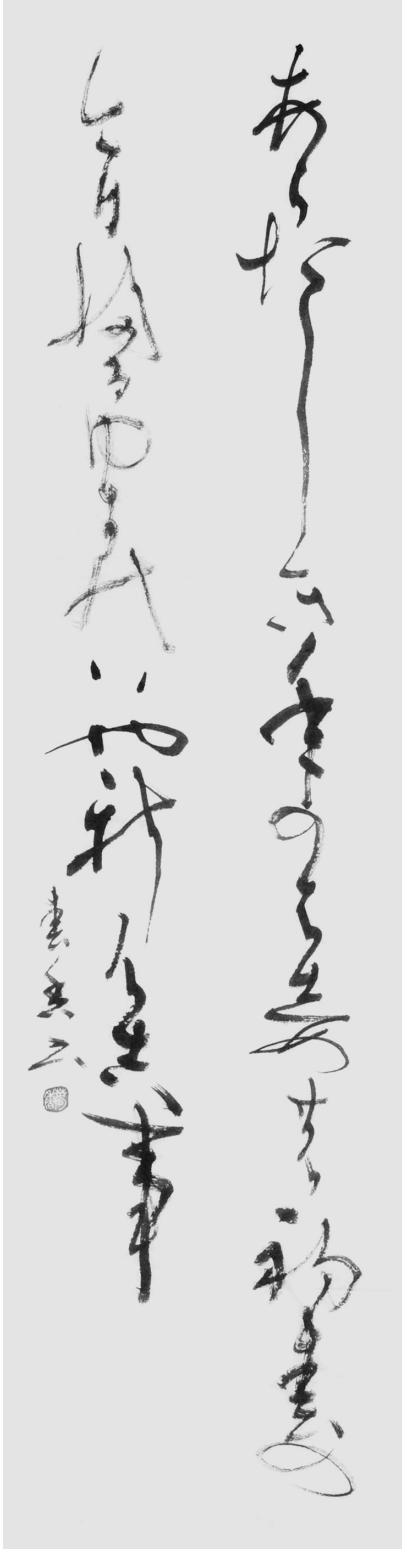
素志與白雲同悠 高情與青松共爽 (王融)
 素志は白雲と同じく悠に、高情は青松と共に爽なり。



訳：日頃いただける目的は白雲と同じくはるかで、高尚なる情は青松と同じくさわやかである。

石 原 春 香 先 生 書

あらたしき年のはじめの初春のけふるゆきのいや重け吉事 (万葉集 大伴家持)
 あらたしき年の者志め農初春の今日婦るゆ支能いや新介吉事

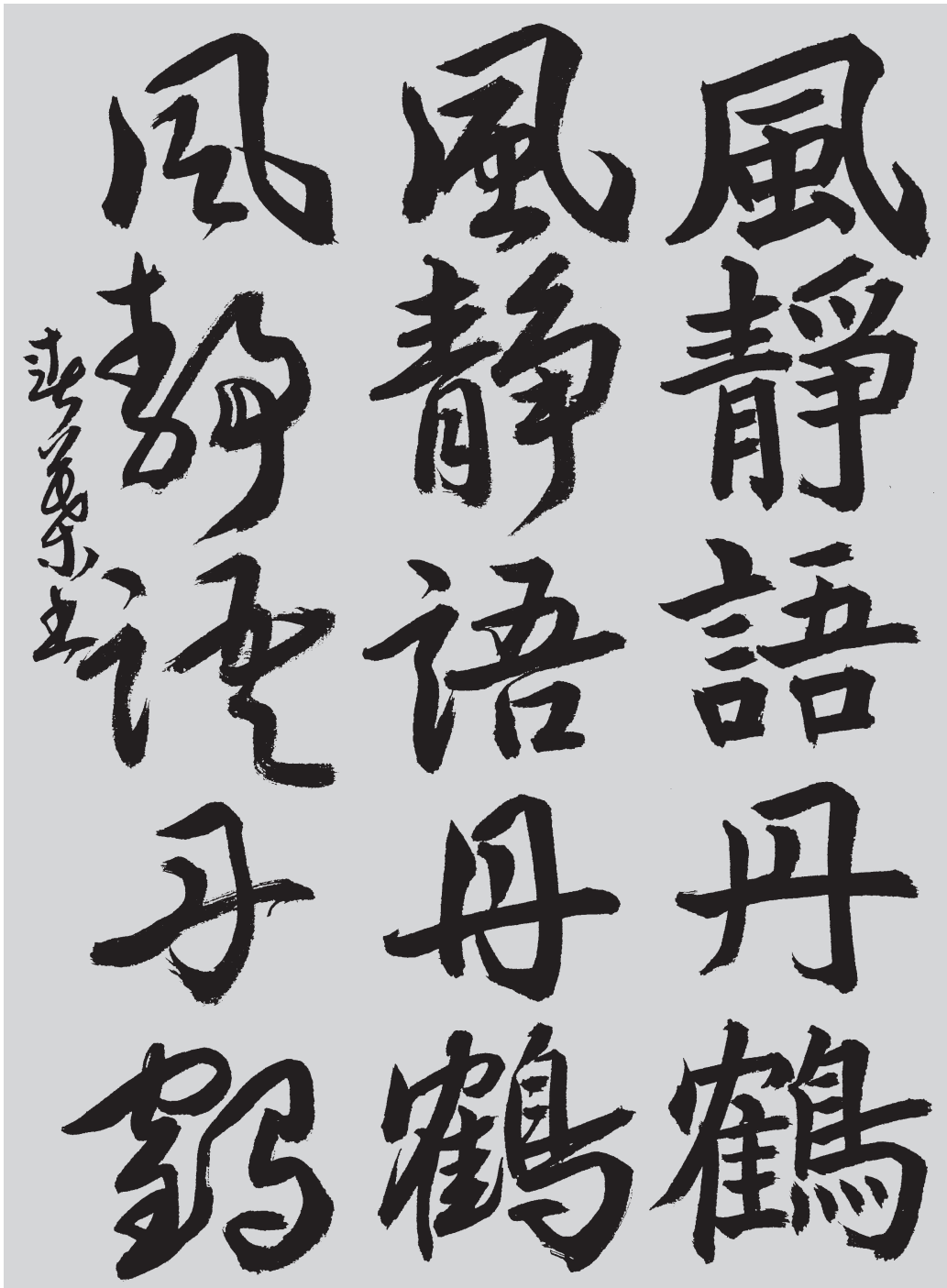


- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

小林 春葉 先 生 書

風靜語丹鶴（陳高）
風靜にして丹鶴語る。

訳：風静かに吹いて丹頂の鶴はよき声して鳴く。



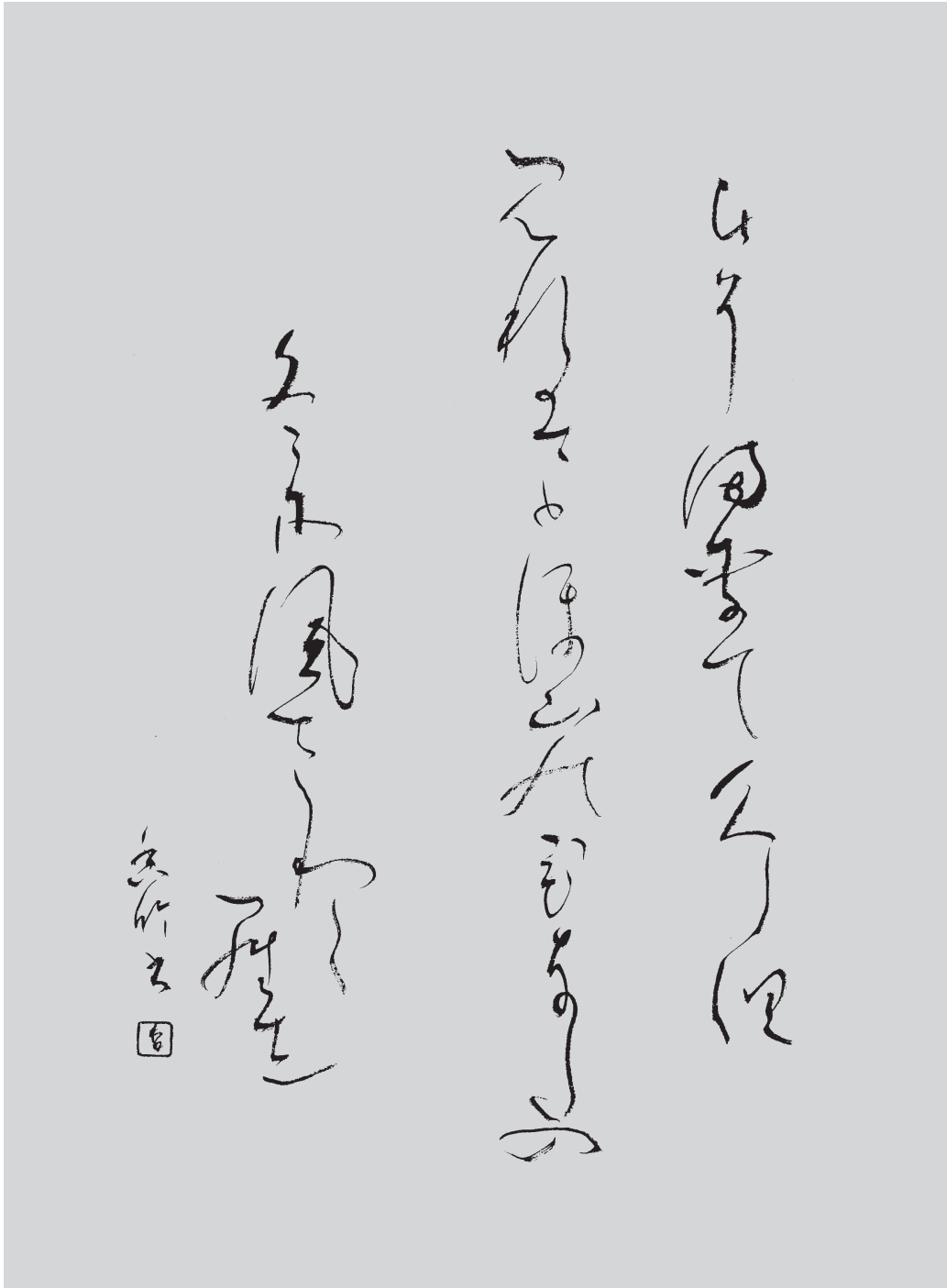
予告 昇試第一部漢字（二月二十二日締切）

淑氣動芳年

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

青柳香竹先生書

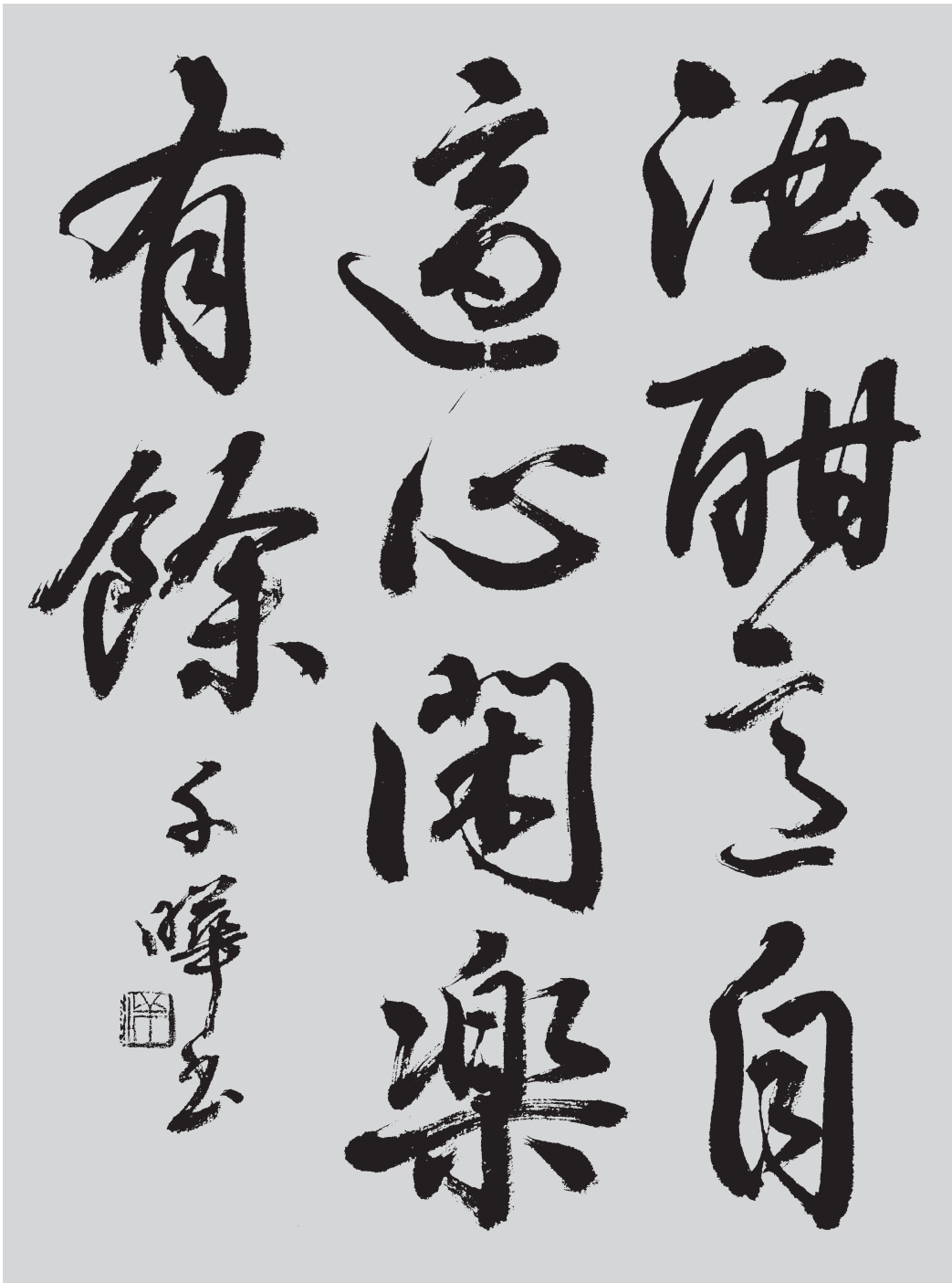
ひそまりて久しく見ればとほ山のひなたの冬木風さわぐらし（若山牧水）
比曾満季て久し俱見れ盤とほ山能飛奈多の冬木風さわ久羅志



◆随意部参考として出品してください。

路川千曄先生書

酒酣さけたけなわ意自適いおのすか心閑樂有餘こころかん たのしみあまりあ（葉夢得）
酒酣さけたけなわに意自適いおのすかし、心閑こころかんに樂有餘たのしみあまりあり。

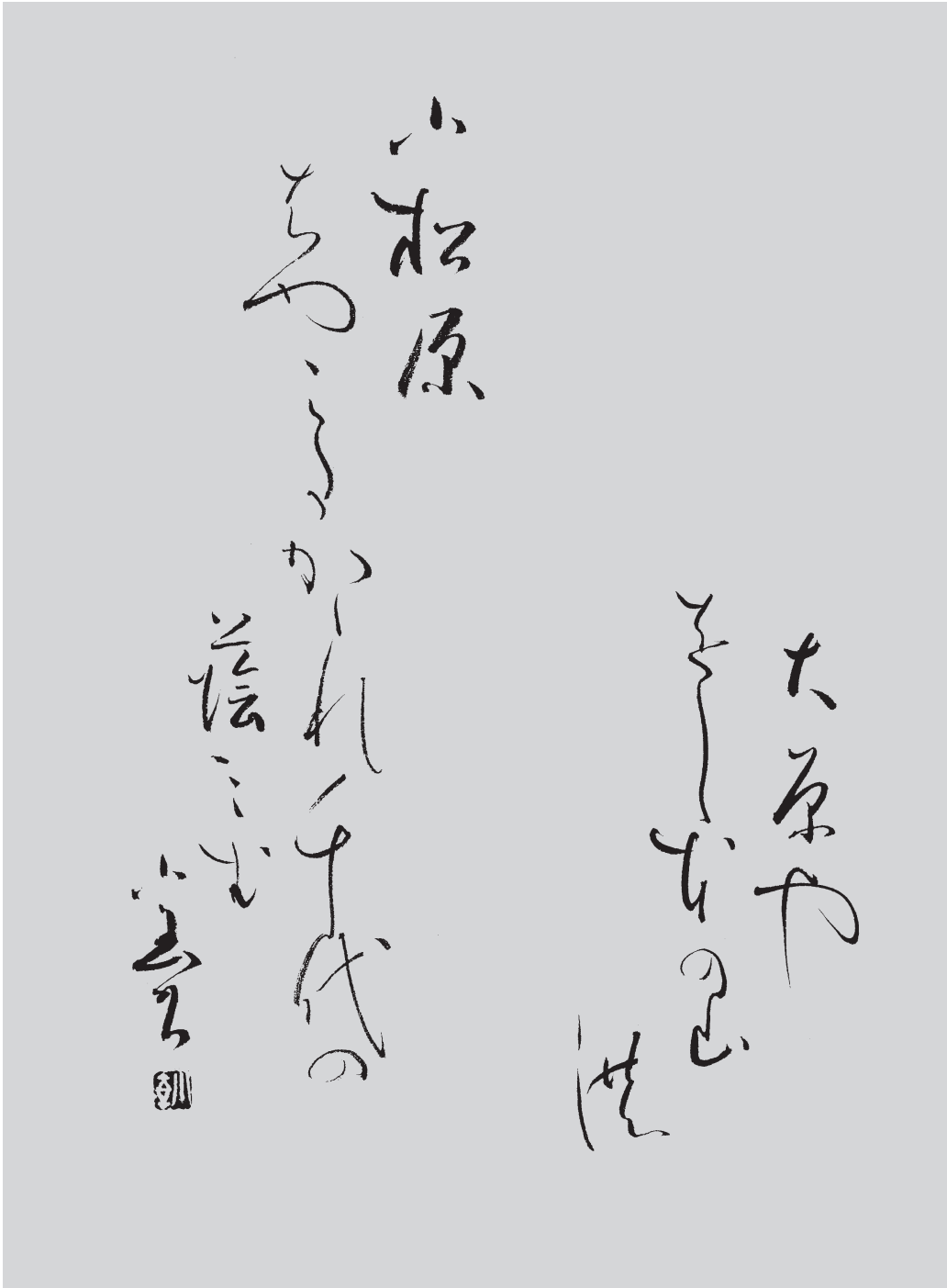


訳：一醉陶然としてくれば自然に合う境遇に到り、心が静かであれば楽しみも自然に余りあるようになる。

添削又は手本希望者は本会規定により、路川千曄先生（〒207-0013 東大和市向原 5-1091-4）に直接お申し込みください。

高山小玉先生書

大原をや小塩しほの山の小松原はやこだかかれ千代の蔭みむ（後撰和歌集 紀貫之）
大原をやし本の山濃の小松原者はやこ多たかゝれ千代の蔭みむ

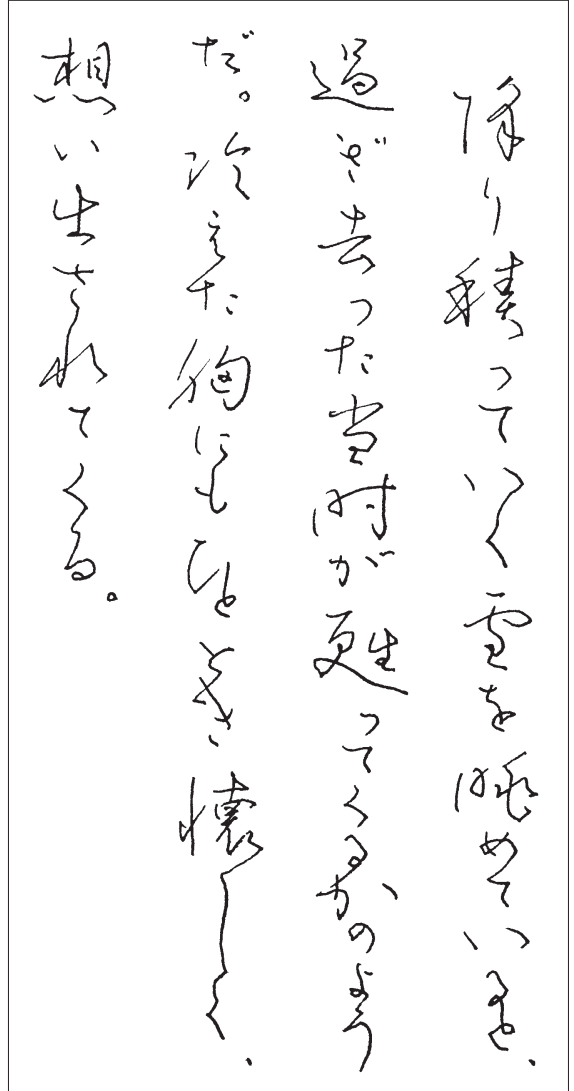
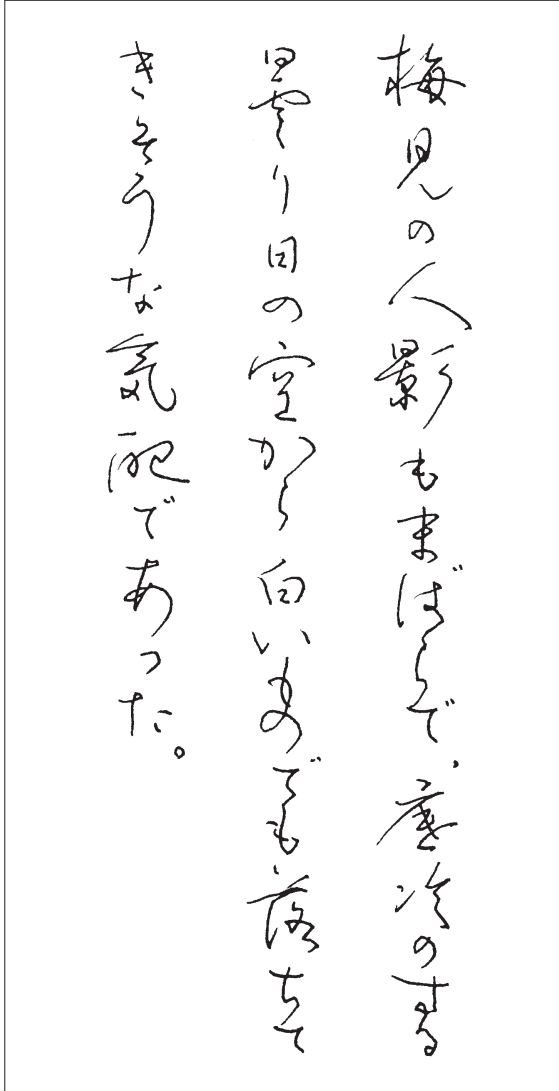


添削又は手本希望者は本会規定により、高山小玉先生（〒114-0032 東京都北区中十条2-17-12）に直接お申し込みください。

喜多波竹先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

降り積ってゆく雪を眺めていると、過ぎ去った当時に甦ってくるかのようだ。冷えた胸にもひととき懐しく想い出されてくる。

〔紅燭〕 木下径子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題 1 六〇〇円
- (6) 課題 2 三〇〇円

課題 1 喜多波竹先生

課題 2 〒二四〇一〇〇六一

横浜市保土ヶ谷区岡沢町

二一九ノ三

課題 2 (初段階以下)

梅見の人影もまばらで、底冷のする曇り日の空から白いものも落ちてきそうな気配であった。

〔幾歳月〕 川崎長太郎